京都教区時報

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
TEL・FAX 079－431-8601

3頁～5頁　－シリーズ召命－　どうして神父さまに!!　アントニオ・カマチョ神父
5頁～7頁　2018年 病者・高齢者奉仕講座
第1回『ともに生きる』　大塚 喜直司教・Sr. 堀家 秋子

2018年 司教年頭書簡「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

「自己とのかかわり」の回心

「『エコロジー』とのかかわりに関する個人の見直し、特に共生」と副題をつけてみます。

このテーマはラウダート・シの中の特に六章「教育と霊性」の教えに基づいていると思います。司教年頭書簡のテーマ4は、大体この章から引用されています。

さて、教皇は「自然は私たちの住む家」と呼ばれるのですが、この考えはこの書簡の根幹となる精神（こころ）だと思います。

今回のテーマは「4つの回心、または和解（和）」のテーマの中で「自己と回心」についてですが、この4つの回心を次のようにまとめてみます。

「自然は私たちの家」であり「私」は隣人を「あなた」と家族として、ともに生きる家にある。この家の主人である神に私たちは従い、「アットホーム」な生活の場にすべきだと考える。

神は主であり「家主」「所有者」であり「創設者」。その家と人は皆互いに「私とあなた」「神の愛子」「世継ぎ・相続者」であると認め合って共に生きている。

この家には、また同伴者（コンパニオン）（パンの仲間）、会食者（コンビビウムするもの）、招待者（外の人）、訪問客にも開かれている。即ち、この家は「選ばれた人々」だけではなく、奉仕者全ての家畜も共住する家、田畑も含めて、一つの生態圏を形成している。各自はあたかも一つの神秘体の一員、一つの大家族のような交わりとその場を作り上げる。すべての被造物は「共に住み」、主人（神）に委ねられた地を耕す、忠実な耕作者（クルトゥス）。

カトリック山国教会
隣の民家

9
2018

クルトゥスには「耕作」「礼拝行為」「文化」の意味を含む（注 創世記）。

ここに見落としてはならない、一つの重要な視点があります。環境問題を他人事のように論じてはいけないということです。

ペトロが自分の信仰を告白するように、求められたように、この問いにも「私の」信仰告白をしなければならない。それがたとえ幼いものであってもです。そのための「私の内的な信仰と回心の霊性から来る」生きた言葉と行いが各自に求められるというのです。

さて、このテーマに答えるのは2つのことを確認するように求められています。

①「4つの和解」の中で「自己との和解」その基本にあるべきこと。

②従って「自分の中なる回心」とはどのように行われるのかと問い続けねばならないことです。

そこで「エコロジカルな霊性」にとって何が重要とされているか、回勅を調べてみました。私が気づいたのは、224項の「私は節欲と謙遜さが大切だと訴えます」という言葉です。ただ「節欲」と訳されている語は、イタリア語ではソブリエタ、ラテン語ではソブリエタス。これは①節制、節酒、節度、まじめ、謹厳、穏健。②簡潔さ、地味、控え目、慎ましやかさ、の意味があります。（この対語はラテン語もイタリア語も酔っ払いとか陶酔と、あまりよくない言葉が使われています。）とすると「節度のある慎ましやかさ」と訳すこともできます。そして謙遜さと同列に置かれていることから、また225項の内容、教皇の環境問題に取り組む際の優しさ、温かさ（「フランシスコやテレジアの霊性について」教区時報2018年2月号 参照）が感じられるのです。

厳しく断罪するより、優しく言い聞かせて納得させる（ここで「北風と太陽」のイソップ童話を思い浮かべています）。

「謙遜」の徳についても、いろんな誤解があるようです。（あまり好まれない？）「謙遜」は私にとっては、徳というより人間の本質そのものを指す言葉だと思います。

それは創造の際のアダマ（土の塵）に、神の息（ルハー）が触れて、アダム（人）が生まれたという、あの瞬間の神との出会いの「妙」を思わせるからです。そんな神の触れと自然（全被造物）に注がれていることを感じ取らせたいと、この「謙遜さ」という言葉に込めておられるのだと思います。

おもに、その神の「慎ましやかな」「温かい触れ」を自分自身の内心に感じるときフランシスコの讃歌が、テレジアの小さな愛の思いが、起こって来るのだと思います。「ラウダート・シ・シニョーレ」（主は賛美されますように）と私たちの心は、自然の中にゆったりと腰を下ろし、世の騒音に流されることなく、自分を取り戻し、神を観想する時を楽しませていただけるなら、私の自然との「和」が生き始めるのではないだろうかと！

「ちょっと一言」

とてもおもしろい言葉を見つけました。それは、「より少ないことは、より豊かなこと」(222)、イタリア語で「Meno è di più」という言葉です。直訳では「より少なく」と「もっと多く」です。2つの語は共に、「もうちょっと」という時によく使う反対語です。そうしたら、「ちょっとがもっと」「ちょっとだけは、**もっと**」となる。小さなことの積み重ねが大きくなるのです。この心構えや口振りは、良くも悪くもなる。環境問題に限らず霊的なことまで、これは言えると思います。

私たちは大改革を急にする力はないかもしれない。でも、小さなことを、愛を込めて、心を込めて、慈しみを大切にすることは出来ます（幼きイエズスの聖テレジアや聖フランシスコのように）。妙好人と呼ばれる人々もまた。

そして教皇はとても身近な小さなこと、例えば人に「ありがとう」ということ（213）。食前食後の祈りをすること。あるいは使い捨てを避ける。質素に生きる。和を大切にする。そういった日常茶飯事から始めよう（211）。と励まされる。それは子供たちでも、よく出来るでしょう。身近で小さなことでいいから、何か始めようよ。

「これくらいなら少々」が大きな墓穴を掘ることになる。

「ちょっとだけでもいいから」が美しい金の山や海を生む。

心の回心。自己の回心。そして美しい自然。私たちの家。

（村上透磨）

シリーズ ―召命―
どうして神父さまに‼
アントニオ・カマチョ 神父

今回はグアダルペ宣教会司祭アントニオ・カマチョ神父にお話を伺いました。カマチョ神父は、京丹ブロック・教区広報委員会担当司祭として司牧され、京都教区時報編集委員でもあります。

○は編集子
●はカマチョ神父

○　カトリックとの出会いをお聞かせください。

●　私は幼児洗礼で、生まれて7日後に洗礼を受け、家庭で信仰生活を学び、カトリックの幼稚園と小学校に通っていましたが、普通の子どもだったと思います。

○　子どものころの話をお聞かせください。

●　元気な子どもでした。学校では、サッカーをしていました。土曜学校では、イエス様の話を聞きました。それぞれの学校の友達と、よく遊びました。日曜日は子どものミサに侍者で参加しました。

○　ご家族・家庭環境などをお聞かせください。

●　皆カトリックで、父は毎日ミサへ行き、夜はロザリオなど、いろいろな祈りをしていました。家族は父と母（帰天）、弟が1人、今は結婚して子どもが3人います。父と母は教会でいろいろな活動をしていました。結婚講座とかマリッジエンカウンターなどの指導をしていました。教会の役員でもありました。

○　神父様になろうと思われたきっかけをお聞かせください。

●　ミサで侍者をしていたときには、神父になろうとは思っていませんでし

ダヴィデ師とカマチョ師 司祭叙階
メキシコグアダルペ宣教会 大神学院

た。ある日、母がマリッジエンカウンターの指導をしていたときに、神父が来られず、ミサがなかった事がありました。やっぱりミサが一番大切ですから、神父がいないと困ると思いました。そのとき母に言いました。『私は神父になります。そして、私がミサをします』。

○　どうして神父様になられたかをお聞かせください。

●　どうしてと言ったらやっぱり、神様がお呼びになり、私は応えました。神秘なことです。いただいた信仰と恵みを私だけではなく、皆様の為に、司祭としてミサを捧げ、秘跡を与え、交わり、一緒に神の国に向かって喜びを分かち合うためです。

○　神学生になられてからの話をお聞かせください。

●　最初は難しかったです。神学院に入って共同生活しながら、祈りや黙想、勉強、さらに院外の使徒職活動によって自己の召命を深めます。そこは教区司祭ではなく宣教師になる宣教会の神学院でした。メキシコに残るのではなく、外国で宣教活動するためです。メキシコで5年間、日本で4年間、神学生活をしました。

○　司祭になるまでの話をお聞かせください。

●　長かったです。養成期間15年で司祭になりました。けれどもいろいろな勉強、経験、体験を授けていただき、神様に感謝しています。現代において、聖職者であるということは、教会共同体や、また信者でない方も満たすために、十分に準備されていなければなりません。社会の福音化に取り組むためによく勉強し、よく祈ることが必要です。

○　司祭叙階されてから、何年ですか。

●　19年6ヶ月が経ちました。

○　司祭になってからどうでしたか。

●　イエス様のみ旨に従って行うように「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」と日本まで来ました。

○　司祭になられてから、楽しかったことや喜びをお聞かせください。

●　楽しかったことはいっぱいです、特に信者さんと一緒に教会活動をすることです。喜びは毎日ミサを捧げることです。一番心に残っているのは、教皇ベネディクト十六世によるメキシコ訪問でのメディアコーディネーターをさせていただいたことです。それと、教皇聖ヨハネ・パウロ二世と教皇フランシスコに、お会いできたことです。カトリック信者に生まれてよかったです。

○　今の気持ちをお聞かせください。

両親と弟（金閣寺）

● やっぱり日本に帰って来て、京都教区で司祭司牧させていただき、神に感謝しています。

私はあなたと共に歩み、共に喜び、共に泣き、共に成長し、共に祈り、共に宣教する司祭になりたいと思います。

ラ・ムニエカ山でミサ
（メキシコシティから約200㎞離れた山）

2018年 病者・高齢者奉仕講座

第1回『ともに生きる』

講師　大塚　喜直司教
Sr.堀家　秋子
（聖ヨゼフ修道会）

福音宣教企画室では長く「病者・高齢者訪問講座」を実施してきましたが、この度「病者・高齢者奉仕講座」と名前を変え、趣旨や内容をリニューアルしました。「ともに生きる」というテーマを掲げた第1回は、講座の新しくなったポイントや病者・高齢者奉仕とはなにかを学び、さらに実際の現場での体験を聴き、また自分の思いを分かち合うという新しい構成で行いました。

大塚司教は講座の目的、病者や高齢者が置かれている4つの状況において、イエスの福音から自らの信仰を見つめ直すこと、病者・高齢者のもとに「出向いていく」という心構え、最後に病者・高齢者への奉仕の心として寄り添い、ともに歩むことについてお話しになりました。以下に少し内容を紹介します。

京都教区では、30年以上、信徒奉仕職の一つとして、病者・高齢者訪問講座を行っています。近年は超高齢社会で、教会に来られなくなった高齢者、または重篤な病者を司祭がひとりで回ることは難しくなってきており、チームを作って、または聖体奉仕者の方々とともに、訪問するということもさらに増えてきました。そこで改めて、人間として、また信仰者として、病気になるということ、苦しみの意味、年老いていくことの意味や心構え、そしてそのような苦しみや不自由さを抱えていらっしゃる方々に、どう寄り添ったらいいのかということを、まず自分自身が考える必要があると思い、お互いに奉仕し合うという視点に切り替えることにしました。この講座の重要なポイントは2つです。まず、病気や高齢というだれもが通る人生の課題について、どのように信仰を生きるべきかということを、自分自身が考えなければならないということ。その上で、そういう方々をどのようにサポートしていくのかということ。この2つの視点を持って学

び、分かち合うのが新しい講座の目的です。

訪問の心構えとして、マリアのエリザベト訪問の出来事を想起したいと思います。マリアはすでに聖霊を受けて、その聖霊に満たされてエリザベトに近づいていきます。エリザベトはそのとき、その聖霊に満たされているマリアを直感的に感じています。同じようにわたしたちもすでに聖霊をいただき、聖霊を通し、キリストとともに生きているのですから、訪問する前に、わたしはキリストと生きているということをきちんと意識しているか、ということをまず考えなければなりません。人間的な思い以上に、神様とともに生きているわたしが、信仰のうちに生きておられる方のところに行って、そこで出会いがあるということが、この病床訪問の中にも表れてくる霊性ではないかと思います。人間同士の訪問ではなく、わたしの中にいるキリストとその方の中にいるキリストがともに出会うということなのです。

続いてSr.堀家は、55年にわたって障がい児とかかわってきた経験から、子どもたちやご家族との具体的なかかわりの事例を通して、ご自身が学ばれたことや感動したことを分かち合ってくださいました。個別の事例は省き、少し内容を紹介します。

一番最初の患者さんからは、その方と真剣に向き合わなければいけないということを習いました。また訪問するときのこちらのやさしい目、「あなたのために来ましたよ」という目が大切なのではないかと思います。そして相手が打ち解けて、心の中で思っていることを話してくださった時に、心が通い合ってきたと実感しました。しかし自分の心を打ち明けてくださった時、わたしにはなにもできないと無力さを感じる時もあります。自分にはなにができるだろう。神様に祈ること、そしてその方に寄り添うということしかできないと思ったとき、自分のわがままや望みなどどうでもよくなり、自分そのものを受け入れることがどんなに大切かということにも気づかされました。

あるクリスマスに子どもになにがほしいかと聞いたとき、その子は自分の欲しいものではなく、「全く動くことができない隣に寝ている子たちをなんとかしてあげてほしい、それを祈ってほしい」と答えました。相手と対等という意識がありながら、ついなにかしてあげたいという、上からの目線になっていたわたしは、脱帽でした。そして聖書のヨハネによる福音13章に書かれている、神様を愛しなさい、そして隣人を自分のように愛しなさいという掟を思い出しました。その子は自分と同じように隣に寝ている子を愛しているのです。義務ではなく、自分と一緒に生きている人たちを大事にする、隣の人を思いやるという心を学びました。

こうして障がい児の方々、ご家族の方々、ボランティアの方々一人ひとりと

出会ったおかげで、狭いわたしの心が少しずつ広げられ、そしてどれほど信仰を深くさせていただいたか、イエス様の愛を知らされたかと思うと、本当に感謝して毎日を生きなければと思います。こうしてふり返ってみても、一緒に生きてきて本当によかったなと感じます。まっすぐに出会って、その人を愛すること、大事にすることがとても大切で、そうして一緒に生きていくということが本当にうれしいことだと思います。みなさん一人ひとりが大切に良い人生を生きていきましょう。

Sr.堀家の具体的なかかわりの事例に、多くの参加者が心を動かされているようでした。その中からかかわり方の姿勢も学ぶことができたのではないかと思います。病者・高齢者奉仕とはなにか、そして現場のお話をうかがって、自分の感じたことを分かち合うことにより、それらのヒントから自分で考え、気づき、奉仕していくというプロセスを目指して、これからも講座を続けていきます。第2回は11月15日に実施いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。

福音宣教企画室

9月のお知らせ

教　区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊌㊍
聖書講座「回心 ―観想・祈り・詩う―」
日　時：12日㊌ 19:00　13日㊍ 10:30
テーマ：あなたの「肉の心」を捨てて「霊人」となりなさい
講　師：阿部 仲麻呂師(サレジオ会)
日　時：26日㊌ 19:00　27日㊍ 10:30
テーマ：みことばは「人となり」私たちの間に住まわれた
講　師：奥村 豊師
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール
よく分かる聖書の学び／Tel.075(211)3025
日　時：5日㊌ 10:30
講　師：北村 善朗師／参加費：300円
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール
信仰教育委員会
青年のための黙想会
日　時：10月6日㊏ 18:00～7日㊐ 16:00
講　師：チェ ソンファン師
会　場：望洋庵
対　象：青年男女／参加費：2,500円
申込要：FAX.075(211)4345
Eメール honbu@kyoto.catholic.jp
締　切：9月24日㊊

修道会

男子カルメル修道会(宇治修道院)
Tel.0774(32)7016 Fax.(32)7457
聖書深読黙想会(中川 博道師)
日　時：1日㊏ 10:00～16:00
参加費：2,500円
一般のための黙想(九里 彰師)
日　時：8日㊏ 17:00～9日㊐ 16:00
テーマ：人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない
参加費：7,000円
生活の中での霊的同伴(九里 彰師)
日　時：14日㊎ 20:00～15日㊏ 16:00
参加費：6,000円
青年の黙想(中川 博道師)
日　時：15日㊏ 17:00～16日㊐ 16:00
参加費：7,000円
水曜黙想(Sr. ロサ)
日　時：26日㊌ 10:00～16:00
テーマ：私を生まれ変わらせるユウカリステア
参加費：3,000円
聖テレーズの黙想(中川 博道師)
日　時：29日㊏ 17:00～30日㊐ 16:00
参加費：7,000円

諸団体

京都カトリック混声合唱団
練　習：9日㊐ 14:00／22日㊏ 18:00 ミサ奉仕後
30日㊐ 14:00　カトリック会館6階
京都カナの会
例会：2日㊐ 13:30 カトリック会館6階
コーロ・チェレステ(女声コーラス)
練　習：13日㊍ 10:00／27日㊍ 10:00
カトリック会館6階
望洋庵／ Tel.075(366)8337
青年のための聖書講座
日　時：27日㊍ 19:00～21:00
指　導：白浜 満司教(広島教区)
参加費：200円(食事代含)
キリスト教講座
日　時：25日㊋ 19:00～21:00
指　導：大塚 乾隆師
参加費：200円(食事代含)
心のともしび　番組案内
テレビ(衛星スカパー.ケーブル)スカイA
毎週土曜日 朝7:45
シリーズ「喜びと平和のうちに」
出演は松村 信也師(イエズス会)
ラジオ(KBS京都) ㊊～㊎ 朝5:55
㊏ 朝5:15
9月のテーマ「年長者と共に」

大塚司教の ９月のスケジュール
Schedule of Bishop Otsuka

１日㊏-３日㊊ 釜石教会ミサ・大船渡教会ミサ・カリタス南三陸ベース訪問
４日㊋ 中央協議会
５日㊌ 14:00 中央協 長期準備委員会
６日㊍ 10:00 中央協 常任司教委員会
15:30 日本カトリック神学院 常任司教委員会
８日㊏ 10:30 小教区評議会役員交流会（河原町教会）
９日㊐ ９:00 津教会ミサ
11日㊋ 15:00（学法）カトリック滋賀学園 理事会（大津）
19日㊌ 10:00 中央協 神学院設立準備会
20日㊍ 14:00 司教顧問会
22日㊏-23日㊐ カトリック青年連絡協議会・ネットワークミーティング in 京都（宮津マリーンピア）
24日㊊ 11:00 マリオ山野内倫昭被選司教 司教叙階式（さいたま市 浦和明の星女子中学・高等学校ジュビリーホール）
25日㊋ 14:00 福音宣教企画室
26日㊌ 10:30 司祭・司牧者集会（河原町カトリック会館）
28日㊎ 11:00 大阪教会管区司教会議（大阪）
29日㊏ 18:30 伊勢教会ミサ
29日㊏-30日㊐ 南勢カトリックケアハウス訪問
30日㊐ 10:00 紀伊長島ミサ

NWM 開催に際して

９月22日、23日に第35回ネットワークミーティング「NWM in 京都」が開催されます。ネットワークミーティングとは、全国の青年の交流と情報交換を目的とした合宿です。

今回は京都の宮津を開催地とし、全国から青年が約130人集まります。開催までに京都教区の多くの教会へスタッフがお邪魔し、宣伝できたこともあり、京都教区からも16人の青年が参加します。周りの青年に声をかけてくださった皆様、私たちがミサへお邪魔した時に暖かく受け入れてくださった皆様、本当にありがとうございました。

今回のテーマは「むすんで ひらいて」です。自分と、周りの人と、イエス様と、社会と《むすんで ひらく》ことをイメージしてプログラムを作っています。普段の生活の中でむすばれている瞬間や自分がどのようにひらくことができるのか、について感じ、考えられたらと思っています。

当日は北海道、鹿児島など遠方からの参加者が多くいます。どうか参加者が無事に、元気に集まることができますように。そして、NWMが全国の青年にとって有意義な時間となりますようにお祈り頂ければ幸いです。

（NWM in 京都 副代表　小林まゆか）

〔青年センターHP〕 携帯からでもご覧いただけます。 http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/

青年センターあんてな